



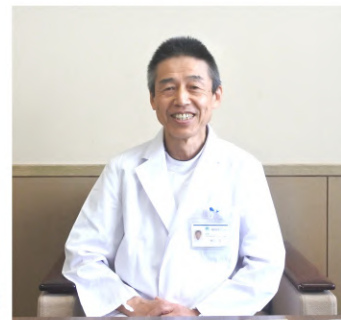
# 高松医療センター

# Medical News

私たちは、患者様とその御家族の立場に立った医療の推進に努めます

## 新年のご挨拶

院長  
(内科)  
細川 等  
HOSOKAWA Hitoshi



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍の4年目を迎え、皆様ポストコロナを見据えて動き始めていることと拝察いたしますが、かつて経験のないこの新しい感染症との戦いを克服すべく、日々多大なエネルギーを費やされていることと存じます。当院を受診される患者さんやご家族はもとより、当院職員やその家族においても、以前に比べて新型コロナに感染するあるいは濃厚接触者になる可能性が、はるかに高い環境での生活を強いられているのが現状ですが、それでも私達は3年前よりも確実に新型コロナへの対応力を身につけ、精神的にも強くなっていると感じています。

しかし世界各地での紛争や経済の危機、さらには自然環境の変化を実感させられ気候変動や大きな災害の多発など、私達の先行きはどうか不安に陥る出来事が次々と起こり、本当に難しい時代になったと思われ知らされます。

そして医療を取り巻く環境も大きく変化して来ており、皆様方に置かれましては新型コロナを克服しつつ、少しずつピークが近づいている超高齢化社会と地域医療構想への対応を念頭に置きながら、ご施設の方向付けを模索しておられることと推察いたします。

さて当院には、セーフティネット医療（結核・重症心身障害・筋ジストロフィーを含む神経筋難病など、民間ではアプローチが困難な分野の医療）を提供する医療機関としての役割を、三四半世紀にわたり果たしてきた歴史があります。昭和の時代、戦後間もない頃に、結核療養所からスタートし、平成に入ってから筋萎縮性側索硬化症をはじめとした神経筋難病の受け

入れ、平成から令和への移り変わりにあわせて療養介護サービスを導入し、さらには少数例からではありませんが、筋ジストロフィーや重症心身障害児（者）の受け入れも開始いたしました。これにより当院は今後も長期にわたり、セーフティネット医療を維持していく体制が出来上がったと考えています。

一方で一般医療においては、感染症や慢性呼吸器疾患を中心とした呼吸器内科疾患の診断治療、糖尿病とその合併症を中心とした生活習慣病の管理、消化器疾患の診断、貧血の診断治療など、内科系疾患の急性期医療から回復期医療、これにリハビリテーションと終末期医療を加えた分野の診療を現在行なっています。

そして特筆すべきは、セーフティネット医療だけに限らず、一般医療においても（脳血管障害や認知症が主な原因になっているものを除いた）障害相当の方や高齢者の受け入れを行っている点です。これらの患者さんは入院が長期に渡ることが多く、他の医療機関では継続治療を行いにくいと思われるため、そういった領域も当院の担うべき役割と考えています。

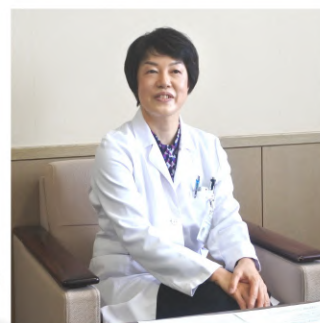
今後も消え去ることのない新型コロナと付き合いながら、未来に向けて新たな医療体制が構築されていくべき時が来ていると覚悟を決め、当院の出来る医療を精一杯行っていく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。



高松医療センター 公認マスコットキャラクター  
新田 乙八  
(にったおとほち)

## 魅力ある入院プログラムで 活力ある病院創りを

副院長  
(神経内科)  
市原 典子  
ICHIHARA Noriko



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は大変お世話になり有難うございました。本年も、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

当院は、他の医療機関との住み分けや当院の特殊性を生かした地域への貢献に主眼を置き、積極的に改革を進めてきました。そして、神経筋難病の拠点病院、結核を含む呼吸器疾患の専門医療機関としての役割を果たしつつ、医療の主軸を障害者・高齢者を対象とした回復期・慢性期に置くという方向性が定まり、基盤となる病床機能もようやく整いました。

改革の過程で、常勤体制が内科系3診療科のみとなったことや救急対応の機能が低下したことは当院の弱みとなりましたが、多くの公的総合病院に助けをいただき心強く感じております。その代わり当院には、旧療養所の時代より政策医療として神経難病および結核の診療をおこなってきた歴史の中で培った、身

体障害や慢性疾患を合わせ持つ難病患者や高齢者に対し多職種チームでかかわる全人的医療、行政や地域と連携しながらおこなう退院支援・在宅サポート入院などのノウハウがあります。これらは当院の強みであり、当院をうまく活用していただくことで地域に十分貢献できると考えております。

当院では昨年末に「魅力ある入院プログラム企画・発案プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトの目的は、患者・家族にとって、他の医療機関にとって、行政を含む地域にとって、さらに働く職員にとっても満足度の高い入院プログラムを企画・発案することにより、地域に求められる病院、持続可能な活力ある病院を創ることです。地域のニーズをどんどん吸収し、これまでにない新たな魅力あるプログラムを多く発案することで、私自身も元氣になれそうです。

## ポストコロナに向かって

統括診療部長  
(呼吸器内科)  
東條 泰典  
TOJO Yasunori



新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりありがとうございました。統括診療部長（呼吸器内科）としてご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行からはや3年が経過しようとしています。皆様もこの間大変なご苦労があったと思います。ご存じのように当院では比較的早い時期に新型コロナウイルス感染症の院内発生を経験しました。その際は皆様方に大変なご心配をおかけしました。私は感染対策室長として深くかわり、皆様と同様に細心の注意を払いながら感染対策を進めてきました。ここにきてようやく出口が見えてきたようにも思いますが、まだしばらくは気を引き締めて対応したいと思っております。

当院の呼吸器疾患診療体制については、結核・抗

酸菌感染症診療と呼吸器一般診療の2本柱で行っております。結核・抗酸菌感染症診療は従来通り香川県の最終拠点病院として皆様のご期待に沿えるよう努力して参ります。呼吸器一般診療は以前から行っている診療とともに、数年前から急性期病床を障害病床に変更するなど当院の役割をふまえた方向転換を行うことにより、新型コロナウイルス感染症治療後を含む呼吸器疾患の急性期治療後や慢性期のコントロール、終末期など中長期のフォローアップや家庭復帰に向けたリハビリテーション患者も受け入れておりますので、ぜひご紹介いただければと思います。

本年も何卒よろしくお願いいたします。

## 学び続ける組織を目指して

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

2022年の世相を表した漢字は「戦」でしたが、私の1年を振り返ると「学」この一文字に尽きます。看護部長という新たな役割を遂行していくために様々なことに悩みながら挑み、どうあるべきか模索し続けた1年でした。皆様のご支援に感謝し、さらに精進して参りたいと思います。

セーフティーネットを中心とした医療と高齢化社会の到来に対応できる医療を柱として、地域医療に貢献するために看護部の取り組むことは「人材育成」です。専門性の高い看護師の育成に努め、質の高い看護の提供ができるよう、学び続ける組織を目指して教育体制の再構築に取り組んで参ります。患者様、そして地域の皆様が当院の看護師に何を求めているのか、そのこ

看護部長  
森川 真美  
MORIKAWA Mami



とにどのように応えるかを考え、学習を深めることが看護の醍醐味です。研究活動の推進や看護師個々のキャリアアップ支援を行うことで、スタッフが日頃の看護に価値を見だしモチベーションを上げることができるのだと考えています。これは継続的に自ら学び成長できる人材の育成となり、病院全体のレベルアップにつながると考えております。

また当院の看護師を地域のリソースとして、研修や講義などにも活用していただけるよう研鑽を続けてまいります。ご要望がございましたら看護部までお問い合わせいただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## さらなる前進の年に

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

当院はこの10年ほどで「セーフティーネットおよび回復期医療」への転換を図ってきました。令和4年は、これまで機能転換に向かって職員一丸となり頑張ってきた結果が徐々に実になろうとしているように感じた年でした。それは数字上にも表れてきており、病院本体の事業収支である「医業収支」において、また、医業外収支を含んだ「経常収支」においても成果が見られるようになってきました。まだまだ経営状況は厳しく、気を緩める余裕は全くありませんが、これまでの頑張りがわずかでも数字となって見えることは、職場の活性化や職員のモチベーションに繋がって行くものと思います。

当院は建築から50年前後が経過している建物の老

事務部長  
伊藤 真之  
ITO Tadashi



朽化への対応や、CT/MRIなど大型医療機器の更新を考えるべき時期にきています。高松医療センターの将来のため、課題に対して職員一丸となって向かっていきたいと思っています。私自身も、今年は昨年に増して前進できるよう、気持ちを新たにしてお参りさせていただきます。

最後に、医療を取巻く環境がますます厳しくなるなか、地域の医療機関で横の繋がりを持つことが、さらに必要と考えております。当院ではこれまで同様、障害者施設等一般病棟にて運営しており、回復に時間を要する患者さんにきめ細やかな治療、リハビリテーション等を行えますので、地域医療連携室までご相談下さい。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

# 外来診療担当一覧表

診療受付：8：30～11：30

診療時間：8：45～17：15

令和5年1月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	大森 実	糖尿病 細川 等	糖尿病・禁煙外来 細川 等	糖尿病 細川 等 内科 山野 智子	
	午後	山野 智子	糖尿病 細川 等			井上 侑香
神経内科	午前		市原 典子	第1・3週 鎌田 正紀 第2・4週 渋谷 佳子		小児神経内科 第1・3週 多田羅 勝義
	午後	国土 曜平				小児神経内科 第1週 多田羅 勝義 第2週 小谷野 耕佑 第3週 多田羅 勝義 小西 行彦 第5週 日下 隆
呼吸器内科	午前	東條 泰典	田所 明	二見 仁康		田所 明
	午後			東條 泰典		
消化器内科	午後				松木 美知子	
循環器内科	午前			(予約のみ) 辻 哲平		ペースメーカー外来(予約のみ) 宮井 翔平
	午後		水重 克文			
外科	午前				小田 浩睦	
	午後			(輪番) 香川大学医師		
整形外科	午前	濱崎 寛	山本 修士			
	午後				濱崎 寛	山上 佳樹
泌尿器科	午後				(予約のみ) 加藤 琢磨	
皮膚科	午後	第1・3・5週 岩田 昌史 第2・4週 喜田 真里奈				
歯科	午後		(予約のみ) 十河 京子			(予約のみ) 小山 光那

## アクセス

〒761-0193

高松市新田町乙8番地

地域医療連携室

TEL：087-841-2162

FAX：087-841-2178

## お車をご利用の方

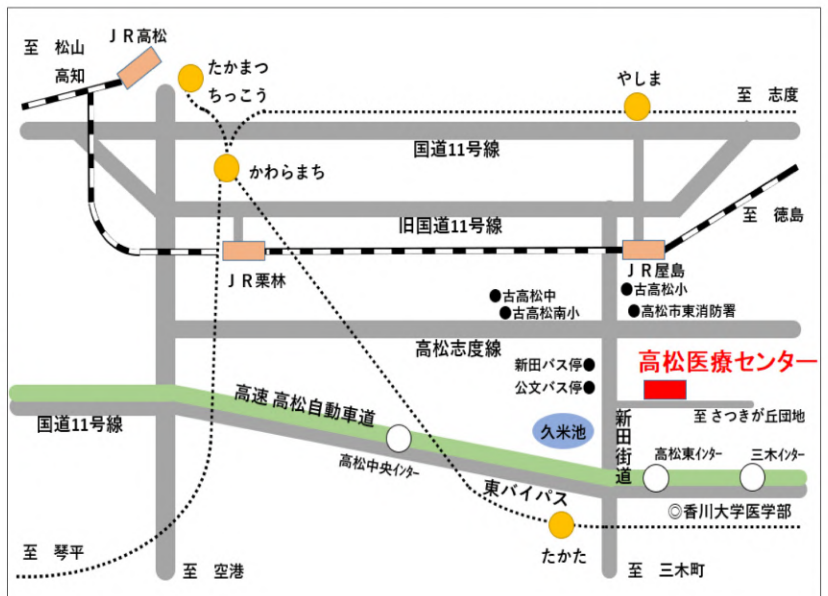
J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中、信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。駐車場は無料。

## バスをご利用の方

ことでんバス『大学病院線』乗車

(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)

『高松医療センター』下車



私達は、  
患者様とそご家族の  
立場に立った  
医療の推進に  
努めます。



独立行政法人 国立病院機構 **高松医療センター**  
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TAKAMATSU MEDICAL CENTER

発行責任者：院長 細川 等

編集責任者：統括診療部長 東條 泰典

こちらのQRコードから当院の  
ホームページをご覧くださいませ→

